

## 第6学年国語科学習指導案

- 1 単元名 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう

「平和のとりでを築く」「自分の考えを発信しよう」

2 指導観

- 本学級の児童は、これまでに「カレーライス」「生き物はつながりの中に」「森へ」「やまなし」の学習を通して、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写や文章構成の意図から要旨や作者の伝えたいことを読み取ってきている。しかしながら、読み方を意識して、その言葉からどんなことが分かるからそう読めるのか説明することが苦手な児童もおり、言葉に着目して、自分なりに解釈する力を付けていく指導を積み重ねていく必要がある。
- 本単元「筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう」は、説明文「平和のとりでを築く」と「自分の考えを発信しよう」から構成されている。説明文「平和のとりでを築く」を読み取るとともに、「平和」というテーマにかかわる多様な材料を集め、自分なりの考えをもち、発信していく学習である。

説明文「平和のとりでを築く」は、原子爆弾によって「傷だらけ」となった物産陳列館が、多くの人々の平和を願う心によって、世界遺産「原爆ドーム」となった経緯と「原爆ドームは、それを見る後世の人々にまで、核兵器の恐ろしさや強い意志をもって平和を守っていくことの大切さを伝える世界の残していくべき価値ある宝なのだ。」という筆者の考えを述べた文章である。

全体が13段落からなり、筆者の思い(①段落)－原爆ドームがたどった歴史、世界遺産への道のり(②～⑩段落)－まとめ(⑪, ⑫段落)という文章構成になっている。

「～思わずにはいられなかった。」「～なのだ。」といった文末表現に筆者の強い思いが込められ、「建物」－「建造物」－「世界遺産」－「記念碑」－「世界の遺産」と原爆ドームに対する言い方が変化しているところから筆者の原爆ドームに対する認識の変化が読み取れる。また、ユネスコ憲章にある「平和のとりでを築く」が題名や最終段落の一文「原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ。」の中にも使われ、筆者の伝えたい考えを読み取る上で重要な叙述となっている。

- 指導にあたっては、まず、単元名、リード文、題名、教科書の単元構成から、説明文を読んで筆者の考えを受け止め、そのうえで平和や戦争についての自分の考えを伝えるという学習の構えをもたせる。

説明文「平和のとりでを築く」の読み取りでは、次のような指導にあたる。

初めに、題名と冒頭から読み通しの目を生み出す。「平和のとりでを築く」という題名を読むと、平和に関することが書かれていると予想されるのに、戦争で城を守る要塞をさす「とりで」という言葉が同時に使われている。この点に筆者の特別な思いが込められていることをとらえさせ、冒頭へとつないでいく。冒頭では、「平和のとりでを築く」という説明文が、「原爆ドーム」とよばれる建造物を題材に述べられていることをとらえさせる。そして、筆者が、語り手「わたし」として、「…この傷だらけの建物がたどってきた年月を思わずにはいられなかった。」と語っていることに着目させ、「どんな年月をたどってきたのだろう」という疑問をもたせ、「原爆ドームは、世界遺産の仲間入りを果たすまでにどんな年月をたどってきたのだろう(読み通しの目①)」。また、筆者は『平和のとりでを築く』で何を伝えたいのだろう(読み通しの目②)」という読み通しの目をつくる。

予見の段階では、文章構成を確認し、読み通しの目①に対する予見をまとめさせる。②段落～⑩段落をもとに、年表としてまとめさせ、原爆ドームが世界遺産の仲間入りを果たすまでにたどってきた年月を確かめさせる。これを踏まえた上で、⑪段落と⑫段落のどちらに筆者の伝えたいことが

込められているか考えさせ、読み通しの目②の予見を書きまとめさせる。

学習計画を立てる段階では、読み通しの目②の予見を交流させ、⑬段落の最後の一文から、次の3つの読み確かめの視点を生み出す。

- ①「それを見る人」とは誰のことか。
- ②「平和のとりでを築く」とはどういうことか。
- ③「世界の遺産」という言い方をしているのはなぜか。

読み確かめでは、3つの視点について事前書き込みをさせ、それをもとに話し合う。視点①については、一少女から市民、全国、世界の人々、後世へと広がりをもっていったことをとらえさせ、視点②では、ユネスコ憲章の言葉を自分の知識や経験とつないで考えさせ、視点③では、原爆ドームに対する言い方が変わってきていることから考えさせていきたい。

読みのまとめと読み方のまとめでは、もう一度読み通しの目に戻り、筆者が伝えたいこと、それに対して自分が考えたことを書きまとめさせる。そして、説明文「平和のとりでを築く」の読み取りで使った読み方とその読み方を使うことでどんなことが分かったのかを振り返るようにする。

自分の考えを発信する段階では、「平和のとりでを築く」を読んでとらえた筆者の伝えたいことをもとに、戦争や平和について考えさせ、自分なりに課題を設定し、調べ、考えを発信していくようにする。

### 3 単元の目標

- 説明文「平和のとりでを築く」で筆者の伝えたいことを読み取ったり、戦争や平和について自分なりに課題を設定し、調べたり考えを発信したりすることで、戦争や平和についての自分の見方・考え方を広げたり深めたりすることができる。
- 引用文を自分の知識や経験とつないで読む読み方や書き表し方の違いに着目して読む読み方を身に付け、筆者の伝えたいことを読み取ることができる。
- 戦争や平和について考えたことを伝えるために、効果的な文章の組み立てを考えたり、事実と意見とを区別して書いたりすることができる。

### 4 学習計画（全14時間）

単元	時	学習活動と内容	指導上の留意点
読み通しの目	1	1 単元名、リード文、題名、教科書の単元構成から学習の構えをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの平和に関する学習や長崎への修学旅行での経験を想起させ、戦争や平和について知っていることや考えたことなどを発表させ、これからの学習に見通しをもたせる。</li> <li>○ 教科書の単元構成をつかませ、説明文から筆者の伝えたいことを読み取った後に自分なりに課題を設定し、調べ、発信していく学習であることをとらさせる。</li> </ul>
		2 題名を読む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「とりで」の意味を調べさせ、戦争に使う要塞であることを確かめる。そのような言葉を使って題名にしている</li> </ul>

単元のめあて：戦争や平和についての考えを深め、自分の考えを発信しよう。

		<p>3 冒頭を読む。</p> <p>4 題名と冒頭をつないで、読み通しの目を生み出す。</p>	<p>ことに問題意識をもたせ、筆者の特別な思いが込められていることをとらえさせる。</p> <p>○ 題名を読んだときの問題意識をもとに冒頭を読んでいくようにする。</p> <p>○ この説明文が、「原爆ドーム」とよばれる建造物を題材に述べられていることをとらえさせる。</p> <p>○ 筆者が、語り手「わたし」として、「…この傷だらけの建物がたどってきた年月を思わずにはいられなかった。」と語っていることに着目させ、読み通しの目を生み出していく。</p>
<p>読み通しの目①： 原爆ドームは、世界遺産の仲間入りを果たすまでにどんな年月をたどってきたのだろう。</p> <p>読み通しの目②： 筆者は「平和のとりでを築く」で何を伝えたいのだろう。</p>			
予見	3 ①	<p>1 全文を読んで、難語句の意味を調べる。</p> <p>2 意味段落に分けて、文章構成をとらえる。</p> <p>3 読み通しの目①に対する予見を年表に書きまとめる。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>① 1 年表を確かめる。</p>	<p>○ 難語句について辞書を引かせたり、歴史的背景について補足説明を加えたりする。</p> <p>○ 文末表現に着目させ、筆者の思い(①段落)－原爆ドームがたどった歴史、世界遺産への道のり(②～⑩段落)－まとめ(⑪, ⑫段落)という文章構成になっていることをとらえさせる。</p> <p>○ 時を表す言葉、建物のことが書かれた文章に着目させて書きまとめさせる。</p> <p>○ 書きまとめた年表を発表させ、全体で確かめていくようにする。</p>
<p>予見①の方向</p> <p>② 1915年 物産陳列館が完成した。</p> <p>③ 小学生たちの絵や書の作品展の会場として、市民に親しまれていた。</p> <p>④ 1945年 建物にほど近い約六百メートル上空で原子爆弾が爆発した。</p> <p>⑤ 建物は全焼して、れんがと鉄骨の一部が残った。丸屋根の部分は、支柱の鉄骨がドームの形となった。</p> <p>⑥ 戦後間もないころ 原爆ドームを保存するか取りこわしてしまうのかの議論が続いた。</p> <p>⑦ 1960年 一少女の日記がきっかけで、原爆ドーム保存へと市民の意見が固まった。</p> <p>⑧ 補強工事が繰り返された。</p> <p>⑨ 1992年 日本がユネスコの世界遺産条約に加盟した。その直後から原爆</p>			

		<p>ドームを世界遺産にしようとする動きが高まり、指定されるまで続いた。</p> <p>⑩ 世界遺産とは、文化遺産や自然遺産を未来に向けて大切に守っていこうとする制度である。</p> <p>⑪ 1996年 世界遺産決定の知らせが届いた。</p>	
	①	1 読み通しの目②に対する予見を書きまとめる。	○ 文章構成に着目させ、どの段落を中心に予見をまとめていくとよいのか確認した後に書きまとめさせる。
学習計画	1	1 書きまとめた予見をもとに話し合い、クラスの予見をつくる。	○ 題名と同じ言葉が使われていることや強く言い切っている文末表現、「建造物」が「世界の遺産」となっていることから⑬段落の最後の一文「原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ。」を中心に考えていけばよいことを確認する。
		<p>予見②の方向： 原爆ドームは、それを見る後世の人々にまで、核兵器の恐ろしさや強い意志をもって平和を守っていくことの大切さを伝える世界の残していくべき価値ある宝なのだ。</p>	
		2 予見を読み確かめるための学習計画を立てる。	
		<p>&lt;読み確かめの視点&gt;</p> <p>①「それを見る人」とは誰のことか。</p> <p>②「平和のとりでを築く」とはどういうことか。</p> <p>③「世界の遺産」という言い方をしているのはなぜか。</p>	
読み確かめ	2	1 読み確かめの視点に沿って書き込みをする。	○ どの言葉をどう読んだのか、根拠を明らかにして書き込むように指示する。
	①	1 書き込みをもとに話し合う。	
		① 「それを見る人」とは誰のことか。	○ 「一少女」から「市民」、「全国」、「世界の人々」、「後世」という叙述に着目させ、だんだん広がりをもっていったことをとらえさせる。
		② 「平和のとりでを築く」とはどういうことか。	○ ユネスコ憲章の「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、」の文章を自分のこれまでの戦争に関する知識や経験とつないで考えさせ、そこから「平和のとりでを築く」の意味を解釈させていくようにする。

		<p>③ 「世界の遺産」という言い方をしているのはなぜか。</p> <p>2 読み確かめたこと、読み方を振り返り、書きまとめる。</p>	<p>○ 原爆ドームに対する言い方が「建物」－「建造物」－「世界遺産」－「記念碑」－「世界の遺産」と変化してきていることをとらえさせ、そこには筆者のどんな思いが込められているのか考えさせる。</p> <p>○ 「…なのだ」という強い言い切りの形で終わっている文末表現にも目を向けさせる。</p>
読みと読み方のまとめ	1	<p>1 読み取ったことを振り返り、筆者が伝えたこととそれに対する自分の考えを書きまとめる。</p> <p>2 読み方のまとめをする。</p>	<p>○ 学習の流れ図を用いてこれまでの読み取りを振り返らせ、もう一度題名に戻って筆者が伝えたいことを書きまとめさせる。</p> <p>○ 書きまとめたものを発表し合い、自分の見方・考え方を広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>○ どんな読み方を用いてどんなことが読み取れたのかをセットにしてまとめていく。</p>
自分の考えの発信	6	<p>① 1 筆者の伝えたいことをもとに、平和について考え、話し合う。</p> <p>2 発信する目的と相手、課題、方法を決める。</p> <p>3 調べることを具体化する。</p>	<p>○ 「平和のとりでを築く」の学習をきっかけに、これまでの平和に関する学習や知識とつないで、戦争や平和についてもっと知りたくなったことを出し合い、問題意識を高めていくようにする。</p> <p>○ 発信する相手を工夫し、意欲を高めていくようにする。</p> <p>○ 課題をさらに具体化して考えさせていく。</p>
	①	<p>1 現在の時点で考えていることを「仮の要旨」としてまとめ、それに説得力をもたせる材料を集める。</p>	<p>○ 「仮の要旨」は、できるだけ短い文で明確に書かせるようにする。</p> <p>○ インターネットや本、インタビューなどの方法を用いて、それぞれの特徴を生かして調べるよう助言する。</p> <p>○ 集めた材料が信頼できる材料かどうかを確かめさせる。</p>
	①	<p>1 集めた材料をもとに、「仮の要旨」を「確定した要旨」にまとめ直す。</p>	<p>○ 「確定した要旨」を誰に伝えたいのか、そのためにはどのような方法が適切かを考えて、発信する相手と方法を</p>

	2 文章の構成を考える。	<p>再度検討させる。</p> <p>○ まとまりごとに見出しを付けさせ、次の視点を与え、構成を考えることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 順序はこれでいいか。</li> <li>・ 付け加えや削除するところはないか。</li> <li>・ 事実や引用はこれでいいか。</li> </ul>
②	<p>1 自分の考えを書きまとめる。</p> <p>2 書きまとめたものを推敲する。</p> <p>3 推敲したものを発信する。</p>	<p>○ 文末表現や指示語、接続語の使い方について助言する。</p> <p>○ 資料の効果的な使い方についても考えさせる。</p> <p>○ 推敲の視点を提示し、それに従って推敲させる。</p> <p>○ 発信した後、感想等も交流していく。</p>
①	1 この単元での学習を振り返る。	○ 学習プリントや学習の流れ図を用いて、これまでの学習を振り返ることができるようにする。

6 本時の目標

- 「それを見る人」とは誰のことか、「平和のとりでを築く」とはどういうことか、「世界の遺産」という言い方をしているのはなぜか考え、筆者の伝えたいことを読み取ることができる。
- ユネスコ憲章の引用文を自分の知識や経験とつないで読む読み方や原爆ドームに対する書き表し方の違いに着目して読む読み方を身に付けることができる。

7 本時指導の考え方

前時までに子どもたちは、筆者の伝えたいことを読み取るために、「それを見る人」とは誰のことか、「平和のとりでを築く」とはどういうことか、「世界の遺産」という言い方をしているのはなぜかという3つの視点について考え、書き込みをしている。

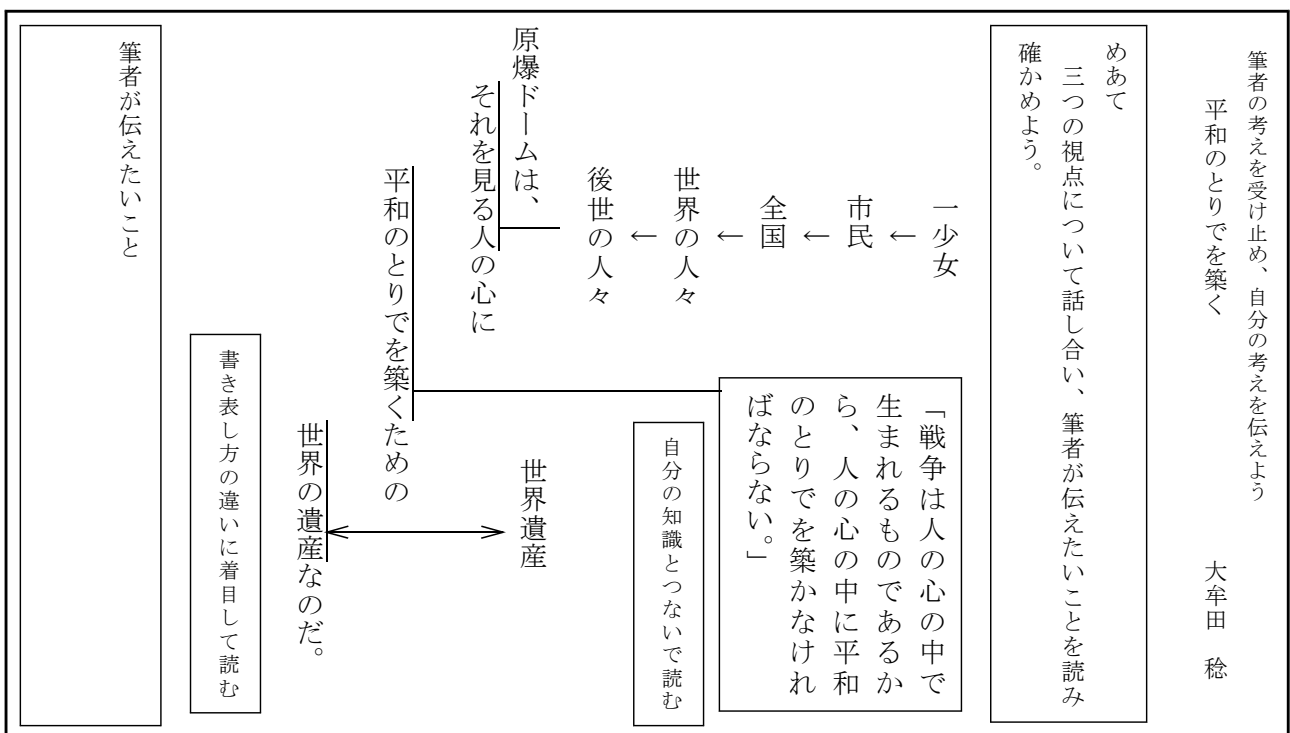
本時は、書き込みをもとに、3つの視点について話し合い、ユネスコ憲章の引用文を自分の知識や経験とつないで読む読み方や原爆ドームに対する書き表し方の違いに着目して読む読み方を通して、筆者の伝えたいことを読み取ることがねらいである。

本時指導にあたっては、まず、学習の流れ図をもとにこれまでの学習を振り返り、3つの視点について話し合う順序を確認する。

話し合いでは、初めに、「それを見る人」とは誰のことか、「一少女」から「市民」、「全国」、「世界の人々」、「後世」という叙述に着目させ考えさせる。次に、「平和のとりでを築く」とはどういうことか、話し合う。ユネスコ憲章の「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、」の文章を自分のこれまでの戦争に関する知識や経験とつないで考えさせ、そのこととつないで「平和のとりでを築く」の意味をとらえさせていくようにする。そして、原爆ドームに対する言い方が「建物」－「建造物」－「世界遺産」－「記念碑」－「世界の遺産」と変化してきていることと「…なのだ」という文末表現に込められた筆者の強い思いを考えさせ、筆者が伝えたいことを読み取らせていくようにする。

最後に本時の学習のまとめとして、3つの視点をもとに読み取った筆者が伝えたいことと学んだ読み方を書きまとめていくようにする。

8 板書



9 本時の展

学習活動と内容	指導上の留意点
<p>1 これまでの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。</p> <p>(1) 前時までの学習を振り返る。</p> <p>(2) 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○ 学習の流れ図や学習プリントを振り返らせ、「それを見る人」とは誰のことか、「平和のとりでを築く」とはどういうことか、「世界の遺産」という言い方をしているのはなぜかという3つの視点について考え、書き込みをしたこと、話し合いの順序等を確認していく。</p>
<p>&lt;本時のめあて&gt; 3つの視点について話し合い、筆者が伝えたいことを読み確かめよう。</p>	
<p>2 読み確かめの視点について話し合う。</p> <p>(1) 「それを見る人」とは誰のことか話し合う。</p> <p>(2) 「平和のとりでを築く」とはどういうことか話し合う。</p> <p>(3) 「世界の遺産」という言い方をしているのはなぜか話し合う。</p>	<p>○ 書き込んだものを分けておき、意図的な指名も取り入れて話し合いを組み立てていくことができるようにする。</p> <p>○ 「一少女」－「市民」－「全国」－「世界の人々」－「後世」という叙述をつないで考えさせる。</p> <p>○ ユネスコ憲章の「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、」の文章の意味を自分のこれまでの戦争に関する知識や経験とつないで考えさせ、そのことから「平和のとりでを築く」の意味をとらえさせる。</p> <p>○ 「…なのだ」という強い言い切りの形で終わっている文末表現や原爆ドームに対する言い方が「建物」－「建造物」－「世界遺産」－「記念碑」－「世界の遺産」と変化してきていることをとらえさせ、そこには筆者のどんな思いが込められているのか考えさせる。</p>
<p>3 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 本時で読み確かめたことを振り返り、書きまとめる。</p> <p>(2) 本時で使った読み方を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の知識や経験とつないで読む読み方</li> <li>・書き表し方の違いに着目して読む読み方</li> </ul>	<p>○ 板書をもとにしながら、本時で読み取ったことを児童に振り返らせる。自分で話す練習をさせて、自信をもって振り返りができるようにする。</p> <p>○ 本時で使った読み方とその読み方を用いたことでどんなことが分かったのかを振り返り、後の学習に生かしていけるようにする。</p>